



【教育目標】 自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。  
【一学校一改善】 ○探究学習の工夫・充実 ○サポートルームの開設・運営

## 眼に見えるものは、眼に見えないものによって支えられている ～ある日の全校朝会より～

本日の全校朝会では、「眼に見えるものは、眼に見えないものによって、支えられている。」という話をします。

校庭や公園にある大樹の根っこは、その様を見ることはできませんが、地中に広く張りめぐらし、土壌にしっかりと根を下ろしています。

それによって、栄養吸収力を高め、強風への抵抗を増して、大樹をしっかりと支える大きな力を発揮します。だから、強い風が吹いても、倒れることはないのです。

「疾風に勁草（けいそう）を知る」ということわざがあります。「疾風」とは、「激しく強く吹く風」を意味しており、「苦しい状況に立たされること」をたとえています。「勁草（けいそう）」とは、「風雪に耐える植物」のことです。

風がまったくない時は、どの植物が強く、どの植物が弱いのか、見分けがつかせませんが、強い風が吹いたとき、それは分かります。

弱い植物は、強い風に負けて倒れてしまいますが、強い植物は、どんなに強い風が吹いても、しっかりと根を張っていますから倒れることはありません。

我々、人間も同じだと思います。強い風が吹き荒れるような苦しい状況になった時、自分なりの努力が不足している人はすぐにあきらめて、その場から逃げたり、倒れ込んだりしてしまいます。

一方で、心の奥底に堅固たる意志や信念を秘めている人は、どんな状況に立たされようが、前へ進み続けるものです。苦境に立たされるという経験は、ある意味、「自分のやる気の本気度が試される」場面です。

みごとに大木は、長い年月をかけて根を土壌に伸ばします。コツコツとした努力を積み重ねることが、いつかは自分をしっかりと支える大きな力になります。

「眼に見えるものは、眼に見えないものによって、支えられている。」と言われますが、美しい花や果実といった、眼に見える成果を出すためには、眼に見えないもの、例えば、思いやりの心、誠実さ、自律心、礼節、感受性、そして何よりも勇気が必要だということかも知れません。

それらが備わってこそ、様々な降り注ぐ問題を解決できる力につながるのではないかと思います。

「疾風に勁草を知る」とは、逆境や困難な状況の中で初めて、人の真価や強さが明らかになるという意味です。

人も苦しい時期や困難な状況に直面したときこそ、その人の強さや人間性が試されるのです。

逆境に耐えて努力を続け成長することで、真の力を身に付けていきましょう。

